

案②

編集後記

国の財政状況が益々厳しくなる状況において、国立大学の財政も一層厳しさを増すと思いますが、しかし、大学が不要になることは絶対にありません。大学は学問の創造も担っていますが、それにも増して大学にしかできないことは、「次代を担う若者の育成」です。これは崇高な責務です。

では、若者に素晴らしい教育を行うには、良いカリキュラム・的確な教科書を用意して講義を行うだけで良いでしょうか。そこで足りないものに、「若者の動機付け」があると思います。教育の英語 education の語源は、「子供の資質を引き出す」だそうです。

その動機付けに重要な点は、若者に優れた夢のある研究を見せ、「科学への憧れ」を抱かせることだと思います。大学が研究を行うのは当然ですが、しかし、研究だけすれば良いのではなく、研究を通じ、次代を担う若者に「動機付け」を与えることです。それだけ素晴らしい、夢のある研究課題を大学は選択して地道に推進する必要があります。

動機付けのもう一つの重要な点は、「大学等の組織が前向きになる」ことです。大学組織が後ろ向きでは、前向きな若者の育成はできません。良いキャンパス、前向きな教職員、日々改善される組織、そうしたものが重要となります。「ここで学んだことが良かった、素晴らしい組織だった」と伝えることも、彼らが社会に出てから良い組織を作ることに繋がり、我が国が良くなると期待できます。

昭和 28 年新制大学発足時に制定された、ある大学の工学研究科の設置目的には次のように記述があります。「人間及び自然に対する広い視野及び深い知識を基本として、安全かつ豊かな社会の実現のために自ら考えて研究を遂行

し、将来の科学技術を発展させ、革新を起こすことができる、豊かな創造性及び高い研究能力を有する人材並びに高度な知識を有する技術者を育成することを目的に、工学研究科修士及び博士課程が設置された」。様々な大学でも理工系であれば、その設置目的は類似した内容だと思います。制定後 60 年を経てこの理念は今も変わっておりませんが、実は、文章中には未確立のアプローチが多く含まれています。例えば、「豊かな創造性及び高い研究能力を有する人材」とはどうやって育成するのか等という点です。これらは人類の永遠の課題だと思います。したがって、大学は、これらの未確立のアプローチを模索し人材育成に関わる最適解（理想）に近づくため、創造と改革を継続する必要があります。

教育の本当の役割は、従来の学問で確立された「知識」を次世代に伝え、その若者に「新しい創造の準備をさせる」ことにあります。しかし、大学が、「創造力をもった人材を育成し、優れた研究成果を創造していくこと」は、上で指摘したように、確かに目標には掲げられていますが、そこへのアプローチは何一つ確立していません。そのため、教育、研究の面で改革の推進を継続する必要があります。そのため組織面の活性化も必要ということです。そのため組織は、自由闊達で、楽しい、活気ある組織になることが大切です。以上は、大学を例にしましたが、本学会や学会の会員の皆様の所属する組織も同様です。そして、学会や大学が新たな進歩を企て、文明の先頭に立って進んで行くとする気概を、皆さんと共有させて頂きたいと思います。

金井 浩

超音波医学

Japanese Journal of

Medical Ultrasonics

第 41 巻 第 2 号 (通巻第 280 号)

© The Japan Society of Ultrasonics in Medicine

—禁転載—

本体価格 2,100 円 (税込み) (本誌購読料は会費に含まれます。)

平成 26 年 2 月 15 日発行

編集者 一般社団法人日本超音波医学会編集委員会 委員長 金井 浩

発行者 一般社団法人日本超音波医学会 理事長 竹中 克

〒 101-0063 東京都千代田区神田淡路町 2-23-1

お茶の水センタービル 6 階

TEL 03-6380-3711

FAX 03-5297-3744

印刷所 大村印刷株式会社